

平成 29 年度 事業報告書

平成 29 年 4 月 1 日 から 平成 30 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人いのちにやさしいまちづくりぽぽねっと

☆ぽぽね聞き書きの会

■企画全体評価

長年の活動のおかげで少しずつ認知度が高まってきた。

中でも、平成 28 年度の小田先生の講座にて里親制度について聞き書きをした作品が、小松市の小中学校の教本になったり、NHK の取材につながったりした。更に、NHK、朝日放送、中日新聞、北國新聞とメディアでの注目も高まってきている。

又、今年度はまとまった部数で作品を購入される方が多くいた為、1 冊 300 円（必要経費分）で販売する形を整えた。

■反省点

- ・メンバーが固定されてしまい、お知らせを出しても参加者が増えなかった。
- ・28 年度の最後に開催した小田先生の講座の参加者が、29 年度につながらなかった。

■その他特記事項

- ・福島へ行ったり、市民病院の緩和ケア病棟より依頼を頂いて聞き書きを行うなど、聞き書きカフェ以外の活動からも普及に努めている。

☆障がい者の居場所づくり

■企画全体評価

- ・小松短期大学のバリアフリーマップ研究会、臨床工学ステージ 1 年生との交流会に参加し、障がい者やその家族の日常生活や思いなどを聴いてもらえる良い機会が出来た。医療従事者を志す学生にとって、臨床の玄関口になったのではと思う。
- ・「バリアフリーマップ+」制作の活動が、小松短期大学の授業に組み込まれ、関わる学生が増えた。
- ・障がい者に関わるイベントに参加、交流し、「バリアフリーマップ+」の紹介が出来た。

< イベント > 障がい者ふれあいフェスティバル・・・9/10

こぐまの会・・・4/8、5/13、6/10、7/15、9/9、11/11、12/9、3/10

ちょっとでてみよっさコンサート・・・10/14

虹を呼ぶコンサート・・・6/18

■反省点

- ・「バリアフリーマップ+」の調査様式の確認の遅れで、新規調査が出来なかった。
- 小松市や関係団体の行事には参加出来たが、当部会がイベントを企画主催する事が出来なかった。又、お誘い頂いたイベントや勉強会への部会員の参加調整が難しく、参加出来なかったものもある。

■その他特記事項

協働機関の組織変更、担当員の交代に伴い、連絡調整に確認が必要となった。

☆子育て中の親子の育成事業 <そらまめ教室>

■企画全体評価

- ・材木町町屋をお借りして2年目の実施。場所にスタッフも参加者も慣れて過ごせた。
- ・前年度から継続の母子が多く、子供たちの成長と共に母から離れなかった児がおもちゃのところで保育士と遊ぶようになってきた。子供同士の関りや、おもちゃの取り合いの場面があり、その機会を利用して母親の児への接し方を皆で考えたり、先輩ママからの経験談が出て、母同士の話し合いがよくできるようになってきている。
- ・昨年同様、食事に関する質問・相談が多かったが、先輩ママの良いアドバイスがたくさん出てきた。保育士、保健師からはおやつタイムの母子の様子を観察し、普段の生活について質問したり、ヒントを出すことができた。
- ・昨年の反省をもとに、すこやかセンターから保健師が見学に来てくれ、紹介がうまくいくようになってきた。

■反省点

- ・すこやかセンターとの連絡が、電話でははっきりしないことがあったので、来年はメールと郵便での連絡を多くすることとした。

■その他特記事項

- ・材木町の駐車場利用できるところが少なくなり、うらら前の駅前コミュニティサロン友に移動して欲しい旨を前年度から言われていた。1年間検討したが、他に適切な場所が見つからず、平成30年度より移動することにした。約10台の駐車スペースがあり、裏口を利用しすぐに会場に入れるよう交渉した。又、利用料金も今年度並みでお願いし了承頂いた。場所は洋室で少し狭くなることに不満な点はあるが、工夫して安全に開催していきたい
- ・個別相談
6回実施 延べ 大人6名、子供5名・・・スタッフ2名で対応

☆次世代育成事業

■企画全体評価

小松市主催で認知症ケアコミュニティマイスター養成講座を10回にわたり実施した。20名の受講者が、講義受講のみでなく、参加動機のレポート、自分の排尿排便チェック、聞き書き、アクションプランの立案・実践をし、16名(約80%)がアクションプランの発表を実施できた。アクションプランを実践することで自信もつき、職場でも認めてもらえた方もいた。皆さんが横のつながりができて楽しそうだった。養成講座の卒業生は、マイスターの会の会員となり一緒に活動する流れができた。来年度は、認知症ゴールドサポーターを中心に市民マイスターと一緒に養成できるように検討している。

いきいきシニアこまつ推進プラン(第6期小松市高齢者保健計画・介護保険事業計画)にも記載され、小松のホームページにも小松市認知症ケアコミュニティマイスターのいる事業所一覧も掲載された。

参加者数：①21名、②24名、③24名、④26名、⑤25名、⑥25名、⑦31名、⑧21名、
⑨40名、⑩26名

■反省点

- ・いつも有志メンバーと会議を重ねながら当日の役割を分担していたが、10月からマイスターの会が設立されたことで、養成講座の開催サポートがスムーズにできるようになっている。

- ・事務局としての業務が集中しすぎるため、次年度はマイスターの会会員にも協力を求める。(案内窓口、一般公開講座の事業所の案内送付、チラシ作成、議事録の作成や会計、小松市への連絡・提出書類の作成、弁当発注、謝礼金準備、講師への事前案内など)
- ・開催場所を小松市民病院を中心としたことで、迷わずに集まりやすく、駐車場も広く使い勝手がよかった。一般公開講座では、小松市民病院の看護師さんもたくさん参加して頂けた。

■その他特記事項

- ・事業所などへ案内通知をする場合には、主催である「小松市」の封筒を使用すると反応が良かった。
- ・小松市からの事業委託金は1,200,000円だったが、小松市封筒代390円と会場借用費45,300円を引いた金額1,154,310円で再契約を行った。

☆ぽぽぽいのちの学校

■活動内容

- ・第16回いのちの学校
日 時：8月2日(水) 13:30~15:30
テーマ：「認知症とともに生きる」～若年性認知症当事者からのメッセージ～
講 師：オレンジドア実行委員代表 丹野智文氏
参加者：会員 5名 会員外 13名
- ・第17回いのちの学校
日 時：10月29日(日) 10:30~14:00
テーマ：「言葉のしずく」～聞き書きを通じてのメッセージ～
講 師：みちのく藤沢聞き書き隊
一関藤沢病院院長 佐藤元美氏 看護師 畠山貴江氏
参加者：会員 4名 会員外 8名
- ・第18回いのちの学校
日 時：1月26日(金) 19:00~20:30
テーマ：乳がんの予防と乳がん患者さんの安心生活の支援
知っておきたい! 「ブレストケア」と「エピテーゼ」
講 師：小松市民病院乳腺外科医師 佐藤礼子氏
荒木病院エピテーゼ制作技術士 荒木早良氏
参加者：会員 4名 会員外 1名

☆事務局&魂のいちばんおいしいところ

■事務局活動

1. 平成29年度は8回の部会長会議と事務局会議を開催。
 - ・4月4日 第1回部会長・事務局会議…H29年度理事会・通常総会の打合せ
魂のコンサート実行委員会
 - ・4月18日 第2回部会長・事務局会議…H28年度決算と29年度予算の確認
魂のコンサート最終打ち合わせ
 - ・4月27日 第1回理事会…通常総会議案承認
 - ・5月12日 H28年度監査

- ・5月22日 第3回部会長・事務局会議…通常総会準備
- ・6月11日 H29年度通常総会、第4回部会長・事務局会議…部会活動報告
- ・6月23日 県NPO支援センターへ活動報告、法務局報告
- ・10月10日 第5回部会長・事務局会議…部会活動報告
- ・11月13日 第6回部会長・事務局会議…部会活動報告
- ・1月23日 第7回部会長・事務局会議…部会活動報告、H30年度日程打ち合わせ
- ・2月20日 第8回部会長・事務局会議…部会活動報告、理事会通常総会日程の件

2. ホームページは全面的な改訂を行い、画面構成も自分たちで編集できるようになり、2018年1月の時点で閲覧数が1,000件を超えた。

■魂のいちばんおいしいところ部会

はじめての「魂のいちばんおいしいところ」は、1997年のクリスマスにALS（筋縮性側索硬化症）という難病を抱えた患者さんのベッドを取り囲むように行われ、20年が経過し、20周年を一区切りとし本コンサートをラストコンサートとして企画した。

20年間で幾度となく利用させて頂いた称名寺さんの本堂をお借りし、谷川俊太郎様・賢作様と覚和歌子様をゲストにお招きした。障がい者の居場所づくり部会の会員さんや支援を頂いている方々を中心に、広く市民の皆様の集いの場として200名の参加を得た。

今回は感謝の集いとしての記念コンサートと位置付けるため、2015年度受賞の保健文化賞の賞金、2016年度の保険協会からの寄付40万円と参加チケット収入の20万円を予算としたが、支出を抑えて約16万円の収支プラスとなった。